

第6学年国語科学習指導案

日時 平成16年10月29日(金)
児童数 男9名 女12名 計21名
授業者 三浦久美子
場所 第6学年教室

1 単元名 工夫して発表しよう
教材名 わたしの六年間

2 単元について

(1) 教材について

小学校生活最後の年を迎え、児童はこれまでの学年の復習や卒業に向けての取り組みなどで学校生活をふりかえる機会を多く持つようになる。リーダー的な役割を果たしてきた6年生の生活の中で相手の立場を尊重しながら、自分の意見をはっきりと伝え、よりよい生活を築いていくことの意義を感じるようになってきている。

このような時期に、自分の体験が自らの成長にどのように関わっているのかを客観的にとらえ、整理して発表する学習は、児童の社会性をさらに伸ばすと考える。

さらに、本単元は聞き手に興味を持たせ、理解してもらうというために、これまでの学習を生かして自分なりに創意・工夫しながら活動を進めていくことが求められる。このような学習を通じて、児童は自分の考えを相手に伝えるためのよりよい話し方を身につけることができるだろう。

(2) 児童について

児童は、前学年の「私たちの学校生活」「伝え方を工夫して発信しよう」などで、自分の生活の中から具体例を挙げて意見を発表する学習を体験してきている。また、相手がより興味を持って聞き、納得してもらうようにするために資料を準備して発表する学習も6年生の「学級討論会をしよう」などで体験している。

これらの学習を通じて、相手に興味を持って聞いてもらう説得力のある話し方や、わかりやすい資料の必要性は理解してきているが、まだ十分身につけているとはいえない。詳しく熱意を持って話すこと、表情や声の大きさ、速度など課題がある。

話すことへの自信をつけるために「朝の会」のスピーチを行っている。スピーチメモを準備して行うが、意欲的に取り組む児童が増えてきた反面、メモに頼ってしまったり、文章を書くこと抵抗を感じたりしている児童もいる。

(3) 指導にあたって

自分の努力、成長に喜びを感じ、力づけてくれた人たちに感謝の気持ちを持つ学習にしたい。

まず、喜びや感謝をより相手に伝えるために、自分の体験をより印象的に伝える発表の方法を工夫させたい。これまで学習してきた劇、音読、インタビュー、資料提示などを効果的に取り入れることにより、発表がより楽しくなり、聞き手の共感と呼ぶと考える。

次に聞き手の興味を惹きつける話し方にも気を配らせたい。これまでの学習を総合して相手に伝わる話し方ができるように、自ら意識させる手立てを組む。手立てとしては以下のように考える。

- ・相手に伝わる話し方についての確認
- ・よい話し方モデル提示
- ・音読の帯活動での訓練
- ・1単位時間に目的や話す対象を意識させる時間とふりかえりの時間を設定すること
- ・相互評価・教師の評価により成就感を感じさせること

発表の指導とともに、友達の発表の良さを感じ取り共感し合う聞き方ができるように、聞き方についても意識づけていく。

3 研究テーマとの関連

本単元は、本校の研究テーマ「自分の考えや意志を表現し、相互交流できる子どもの育成」というねらいを達成するのに適している。

ここでは、はっきりとわかりやすく発表するだけでなく、相手の興味を惹きつける話し方や発表の構成・形態を工夫することで「話す」能力の育成を図るものである。考えや意思がよく伝わるように聞く側の立場を考えて話したり、話す人を尊重してよく聞き、よさを見つけようとする聞き方を心がけたりすることで相互交流の能力や意識が身につくと考える。

本単元では、次の5つの意識を言語活動に位置づけていく。

- 相手意識 発表を聞く人に対して
- 目的意識 6年間の学校生活で心に残る思い出が聞く人によく伝わるように
- 場面状況意識 発表会で
- 方法意識 発表の構成や形態を工夫することで
- 評価意識 発表についての自己評価・相互評価・教師の評価をすることで

4 単元目標および評価規準

小学校生活の思い出について、聞き手の心をつかむように工夫してスピーチをする。

観 点	評 価 規 準	評価場面（分析方法）
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思い出を聞き手によく伝わるように発表の構成・形態・話し方を工夫しようとする。 ・友達の発表のよいところを見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シート（記録分析） ・観察（発言分析） ・ふりかえりカード（記録分析）
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活の思い出を題材に、6年生の自分を聞き手に印象づけるように、組み立てなどを工夫してスピーチをする。 ・目的や場に応じた適切な言葉遣いで、声の調子など効果的な発表のしかたを工夫してスピーチする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察（発言分析） ・ふりかえりカード（記録分析）

4 本時の指導

(1) 目標

グループごとの練習の中で、効果的なスピーチについて助言しあいながらよりよいものに高めることができる。

(2) 具体的評価規準

効果的なスピーチになるようにグループの児童に適切な助言をし、自分の発表も高めることができる。

(3)

展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
とらえる 5分	1 音読・発声練習をする。 2 本時の課題を確認する。 課題 _____ グループでスピーチを聞きあい、よりよくなるように助言し合おう。	声のもののさしと、本時の練習に生かすことを意識させる。 単元の学習計画・自己評価項目を書いた紙板書を見せて確認する。 課題をはっきりした声で読み、意欲的に活動に入ろうとしているか。
みとおす 5分	3 聞き合うときの観点を確認する。 ・相手と目的 ・構成 (話の組み立て) ・形態 (一人で。友達の協力を得て) ・話し方 (声の大きさ 速さ トーン 表情 身振り手振り) ・資料 (写真 図 絵 録音・録画)	前時までの学習をふりかえらせ、紙板書を元にくどくならないように確認する 聞き合うときの観点は学習シートにも入れておき、観点がずれないようにする。 友達の発表原稿を見ながら聞くようにさせる。
ふかめる 27分	4 グループごとに発表を聞き、助言をしあう。 ・発表とメモ、助言。 ・よいところと工夫した方がいいところ。 ・助言を受け、改善しようと思ったところ 5 グループの活動の交流をする。 ・友達のよかったところを発表する。 ・改善例を発表する。	グループのリーダーに事前指導をしておき時間配分をしながら進めるようにさせる。 グループでの聞き合いでは、騒然となってしまうことがあるので、活動場所に配慮し、音量に注意させる。 書き込み、助言ができない児童に対しては友達の発表原稿からポイントを示す。 観点を意識し、適切な助言を書き込んだり、友達に伝えることができたか。 改善例については、発表そのものではなく、観点に基づいてどんなところを改善したか交流し合う。 よく協力していたグループについて教師もほめていきたい。
まとめ 8分	6 ふりかえりカードを書く。 ・次の活動の確認 発表原稿の改善 ・課題の達成 ・自分と友達の活動の評価 ・発表する	友達のがんばりやよさに気づき、他のグループの活動から学ぼうとしているか。 課題の達成については児童の努力を認めたと、教師の評価もしていく。 活動に成就感を持ち、次の活動へつなげようとしているか。

次	時	指導形態	学習計画	評価規準	具体的評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手だて	研究テーマとの関連
					A (十分満足)	B (概ね満足)		
一	1	一斉	教材文を読んでスピーチの目的をつかみ、自分のスピーチの話題を考える。	教材文からスピーチの目的をつかみ、自分の話題についてメモにまとめようとしている。	発表会の目的・意義について自分の考えを発表し、スピーチメモを詳しく書こうとする。	発表会の目的を教材文から読み取り、スピーチメモを書こうとする。	発表会の目的・意義を教材文から見つけさせ、6年間の学校生活を思い出させる。	自己評価
二	2	一斉	スピーチの組み立てを考えてスピーチ原稿を書く。	聞き手の興味を惹きつけるスピーチになるように組み立てを工夫する。	主述、文末表現、言い回しなどに気をつけ、効果的な組み立てを工夫しようとする。	教科書の発表例から効果的な文章の組み立てに気づき、原稿を書こうとする。	発表例の文型を参考にし、山場、中心文、題などを決めさせる。	自己評価 モデル提示
三	3 本 時 4	一斉	グループごとに効果的な発表のしかたを助言し合い、原稿を修正する。	聞き手の興味を惹きつける発表の構成・形態・資料を工夫する。	効果的な発表のしかたについて友達に意見を伝えることができ、自分の発表に活かそうとする。	効果的な工夫を、友達の意見からから気づき、自分の発表に活かそうとする。	友達の意見や教科書の「効果的な発表のしかた」から発表に効果的な工を取り入れさせる。	自己評価 相互評価 教師の評価
四	5	グループ	グループごとに意見を出し合いしあいながら、スピーチの練習を行う。	聞き手の興味を惹きつける、話し方に注意して練習する。	効果的な話し方になるようにグループの児童に適切な意見を伝えようとする。	友達の発表のよさに気づき、自分の発表に生かそうとする。	意見を伝えるときの観点を示し、それを参考にして友達を聞かせる。	自己評価 相互評価 教師の評価
五	6 7	一斉	スピーチの発表会を行う。	聞き手の興味を惹きつける話し方に気をつけて発表する。	スピーチの大まかな内容を頭に入れ効果的な話し方で発表できる。	原稿を元に、自分の決めた工夫を入れて発表しようとする。	自信を持って発表できるように励ましたり、助言したりする。	自己評価 相互評価 教師の評価

工夫して発表しよう
「わたしの六年間」
課題

グループでスピーチ構想メモを読み合い、よりよい発表になるようにくふうしよう。

読み合いのポイント

- ・相手 学級のみならず
- ・目的 六年間の思い出をみんなに伝える
- ・話しの組み立て (順序)
- ・発表方法 形態1 (一人で 友達の協力を得て)
- 形態2 (劇・インタビュー・朗読などの工夫)
- ・資料 (写真・図・絵・録音・音楽など)

修正例

(学習シートを拡大したもの)

学習シート

